

慶應義塾大学文学部 2024 年度英語問題を読む

サファイアオンライン寺子屋受験生から要望があった慶應義塾大学文学部 2024 年度英語問題を解説します。

(この記事は問題の正解の記録ではありません。あくまでも問題の読み方に重点を置いています。正解は「赤本」などで確認してください)

さて、問題形式は昨年度と全く同じでした (入試問題を入手したい方はご連絡ください)。

今年問題文となったのは、Adam Gopnik (アメリカ合衆国の作家、ジャーナリスト、エッセイスト) の 2023 年の作品です。彼はニュー Yorker 誌のスタッフ・ライターとして知られており、文化、社会、政治など幅広いトピックについて執筆しています。彼のエッセイや記事は、その鮮明な洞察力や洗練されたスタイルで高く評価されています。1986 年以来『ニュー Yorker』誌で不朽の存在であるアダム・ゴプニックは、問題文が収められている『ザ・リアル・ワーク』において、いかにして偉大な存在になるかを探求しています。ゴプニックは "達人の謎" を解き明かそうと、徒弟制度とでも呼ぶべきさまざまな仕事に挑んでいます。長年、美術評論家として活躍してきた彼は、ついに絵を学ばなければならないと決意します。オッとこれから先はネタバレになるのでやめておきます。

さて、955 語という超長文です。集中して読めたでしょうか？

問 1) (1) に適語を入れる問題です。ここは、前文で述べられている事実 (the Turk が実際には自動機械ではなく、チェスをプレイすることができなかった) が、人々に与えた影響について言及する際に、主語の名詞節を作る That が適切です。

That it was not actually an automaton and couldn't play chess didn't alter the effect
S V O

it had on people at the time.

「それが実際にはオートマトン (自動装置) ではなく、チェスをすることもできなかったとしても、当時の人々に与えた影響は変わらなかった」という意味です。

問 2) once impressed, we quickly leave the ladder of incremental reasoning behind. を日本語で説明する問題です。この文は、一度感銘を受けると、我々は徐々に推論のはしごを踏み出すことを速やかに止めるということを述べています。言い換えると、何かに感銘を受けると、私たちはその感銘を与えたものの背後にある論理や理由を考えることなく、感動のままに受け入れてしまいがちです。この文は、人々がトルコの自動機械である「トルク」に感銘を受けている間、彼らが進歩的な推論を放棄していることを指摘しています。

問3) 日本語訳ですね。まずはこの部分の文法的な構造をしっかりとつかんでください。

主語：'What seems to have stumped Poe and the other, shrewder Turk detectives'

動詞：'was'

目的語：'not the ugliness of the solution but the singularity of the implied chess player'

いわゆる第3文型です。

日本語訳の例として「ポーと他の、より賢いトルクの探偵たちを困惑させたのは、解決策の醜さではなく、暗黙のうちに示されたチェスプレイヤーの特異性でした。」

問4) lacked を入れることによって、「演じる人物が不足していなかった」という意味が明確に伝わります。

問5) the ubiquity of mastery の具体的な例を選択肢から選ぶ問題です。答えは 'twentieth-century housewives' (20世紀の主婦たち) です。その根拠は、文脈から推測される以下の点です：

① 'In a world seeking excellence, with millions of people crowded into competitive cities, excellence becomes surprisingly well distributed.' という文脈から、競争が激しい都市には多くの才能ある人々が集まっており、その中には予想以上に優れた能力を持つ人がいることが暗示されています。

② 'The second-best chess player at a chess club is a far better chess player than you can imagine.' という文脈から、普段は目立たないような人でも、その分野で優れた能力を持っていることが示唆されています。

このような文脈から、一般の人々の中にも予想以上に優れた能力を持つ人々が存在することが示されています。その中には、例えば家庭に専念している主婦たちのような、一見普通の人々も含まれると考えられますね。

問6) 問3と同じ日本語訳の問題です。まず構文をしっかりと把握してください。

この部分の文法的な構造は、

主語：'The greatest managers in any sport'

述語：'are'

主格補語：'those who know you can always find new and 'lesser' players to play a vital role' の第2文型です。

日本語訳例として、「どんなスポーツでも、最高のマネージャーは、いつも新しい「下位」の選手を見つけて重要な役割を果たさせることができる人々です。」

問7) 一連の英文の最後の文から筆者が何を伝えたいというのかを説明する問題です。ここをうまく説明できるかが合否を分けることになります。

この文の終わり方は、読者に対して「トルクの中に誰がいたのか？それはあなた自身だった」ということを示唆しています。この文は、トルクという機械自体が魔術的な存在としての力を持つのではなく、観客が機械に対して投影した期待や想像力が、その効果を高め、機械を信じる力を与えたことを示して

います。そして、最後の問いかけ ‘Who was inside the machine? You were.’は、読者が実際には自分自身はその機械の中にいたということを暗示し、物事を見る視点や解釈の重要性を強調しています。

いかがでしたか？慶應義塾大学の問題は単に英語力だけでなく日本語の読解力・表現力をも診ていると言っているでしょう。これから慶應義塾大学を目指される皆さんには表面的な語彙や文法、速読のテクニックだけに偏らず、どんな英文に接しても、基本の「キ」の5文型を身につけてください。そうすれば、筆写や作家が読者に何を伝えようとしているのか、受け止められるはずです。英語は数学や物理学といった学問ではありません。所詮言葉ですからね。伝わるはずです。